

事務事業名(細目)	文化財保護調査・啓発事業	担当部課	文化財課
予算コード	10 - 05 - 04 - 001 - 01		
款: 教育費	項: 社会教育費	目: 文化財保護費	

1. 事務事業の目的、事業内容

総合計画体系	好きなまちでエコライフ【社会減抑制】	事業開始年度	評価区分	計画
18	後世に残したい歴史文化遺産の保存活用	H 17	事業種別	1.ソフト事業
事業の目的	歴史文化遺産は、地域の歴史と先人たちの営みや思いを現在に伝え、住民の誇りや愛着心を高めるものである。市内の貴重な史跡、建造物、近代化遺産、天然記念物、民俗芸能など様々な歴史文化遺産を把握、調査研究を行い、その価値付けと適切な保護を実施するとともに、指定・登録を推進する。			
事業の実施内容等	○文化財保護事業 ・文化財保護審議会の開催(7月、3月に開催。市指定文化財として「小川弥兵衛・全銀関係文書」を決定した。 ・文化財保護に関する協議会を通じての研修、保護活動の推進 ・文化財保護に関する事務 ・赤瀬神社防災保存点検事業、大同寺自火報設置に対する補助(負担金216千円) ○神戸大学地域連携事業(委託料600千円) ・市内に所在する古文書の調査研究及び整理を神戸大学との共同研究により整理、調査を行った。 ・奥蔵谷地域で確認された古文書について、神戸大学の指導を受けながら地域住民らとともに整理、調査を行った。 ・研究成果として、3月に展示会と講演会を行った。 ○市指定文化財説明看板設置・修理事業(44千円) ・生野塚碑、一里塚説明看板および「生野鑑山近代化産業遺産特別公開」にかかる誘導看板を作成した。 ○過去の特筆すべき事業 ・平成24年度「生野鑑山及び鑑山町の文化的景観保存管理計画書」策定(印刷費:1,659千円) ・平成25年度「史跡竹田城跡」製本(印刷費:693千円)			

2. 事業費等(単位:円)

節区分	平成27決算(円)	説明等	前年度決算(円)
1.報酬	81,000	文化財保護審議会委員報酬	72,000
7.賃金	0	嘱託職員賃金	0
8.報償費	0	講演会講師等謝礼	126,000
9.旅費	193,650	委員・職員出張旅費	412,400
11.需用費	44,496	消耗品費	334,421
13.委託料	600,000	調査研究委託料	2,200,000
15.工事費	0	工事請負費	139,320
19.負担金補助及び交付金	216,000	全国史跡整備市町協議会等負担金	113,000
合計	1,135,146		3,397,141
財源内訳	特定財源	国庫支出金	1,000,000
		県支出金	500,000
		地方債	
		その他	
	一般財源		1,897,141
合計	1,135,146		3,397,141
国庫支出金を除いた比率	100.00%		

3. 事業費等の推移(単位:円(決算))

【1】節区分	【2】説明	年 度			
		24年度	25年度	26年度	27年度
1.報酬	文化財保護審議会委員報酬	81,000	76,500	72,000	81,000
8.報償費	講演会講師等謝礼	273,000	0	126,000	0
9.旅費	委員・職員出張旅費	560,590	338,450	412,400	193,650
11.需用費	消耗品、印刷費	1,917,450	997,802	334,421	44,496
13.委託料	調査研究委託料	500,000	700,000	2,200,000	600,000
15.工事費	工事請負費	141,750	52,500	139,320	0
19.負担金補助及び交付金	全国史跡整備市町協議会等負担金等	98,000	98,000	113,000	216,000
事業費計		3,571,790	2,263,252	3,397,141	1,135,146
【4】正規職員人件費		8,590,000	8,950,000	11,664,000	3,642,000
【5】臨時職員人件費		0	2,490,000	3,212,000	518,000
【6】総合計		12,161,790	13,703,252	18,273,141	5,295,146
財源内訳	特定財源	1,000,000		1,000,000	0
	【8】県支出金	500,000		500,000	0
	【9】地方債			0	0
	【10】その他	35,800	481,450	0	0
	【11】一般財源	10,625,990	13,221,802	16,773,141	5,295,146
	【12】合計	12,161,790	13,703,252	18,273,141	5,295,146
	【13】国庫支出金を除いた比率	58.00%	100.00%	55.85%	100.00%

4. 成果指標等

【1】事業の活動を表す数値	単位	年 度			
		24年度	25年度	26年度	27年度
文化財保護審議会の回数	回	2	2	2	2
看板修繕件数	箇所	5	2	4	3
<変化の理由> 文化財保護審議会によって指定文化財の選定、調査等を実施するが、年度当初と年度末の計2回開催にとどまっている。しかしながら、審議会としてではなく個別に審議会員と連絡を取り合ったり、樹木パトロールに赴くなど、委員と事務局の連携は強化できている。看板については、劣化、破損した場合の修復、立替えが主となり、定期的な交換は出来ていない。新規の指定文化財については速やかに看板設置を行っている。					
【2】事業の成果を表す数値	単位	年 度			
		24年度	25年度	26年度	27年度
指定文化財の増加数	件	2	3	4	1
<変化の理由> 毎年1件以上の指定をめざし、文化財保護審議会とともに調査を行い、年々増加させている。朝来市にはまだまだ貴重な歴史文化遺産が眠っているため、引き続き指定等の正確な価値付けが必要である。					

5. 成果単位あたり金額(円)

【1】単位あたり金額	年 度			
	24年度	25年度	26年度	27年度
指定文化財の増加数	6,080,895	4,567,751	4,568,285	5,295,146
<変化の理由及びそれへの対応策> 平成27年度から文化財課が設置され、業務量が大幅に増加したにも関わらず人員増がなかったため、当事業にかかる時間が減少し、人件費が大きく下がっている。結果として効率が良くなったように見えるが、指定文化財候補物件の調査に時間が割けなかったり、神戸大学との連携が希薄になるなどの悪影響も見られる。 平成24年度に、生野鑑山及び鑑山町の文化的景観保存管理計画書を製本、25年度は「史跡竹田城跡」を製本したため、この2年間は印刷費が多くなっている。				

6. 事業環境

[1]市民ニーズ・団体の意見 (アンケートなど)	文化財保護審議会委員や区長へのヒアリングによると、指定文化財が増加するのは良いが、もっと地域に分かるように看板設置、広報周知等を図る必要があるとの意見をいただいている。
[2]近隣市町で提供されているサービス水準との比較	神戸大学との地域連携は、朝来市が他市町に先駆けて実施しているものである。
[3]代替サービスの有無	なし

7. 一次評価

評価項目	ランク	評価	評価理由
事業実施の緊急性	2	補充	<p>◆現状事業を継続する。 心人口社会員の育成を図る一つの手段として、地域の誇り、愛着心の醸成が期待されるが、地域の歴史文化遺産を把握し、適切に保存活用していくことは、この誇り、愛着心の醸成の一翼を担う。実際に、指定文化財に指定されることで地域が盛り上がり、地元小学校で授業の教材に使われたり、見学などの活動が増加している。</p> <p>また城学連携においては、地域が主体となって百文書の見学調査を学び、地元の歴史を自分たちが後世に残していくという動きが活発になっており、継続して事業を進めていくべきと考えます。</p>
A 事業実施の必要性	2	継続実施	
実施主体の妥当性	3	改善見直し	
サービス対象の広がり	3	抜本的見直し	
B 事業内容等の適切さ	2	休止	
受益者負担の適切さ	3	廃止	
C 市民ニーズの把握	1		

A 事業実施意義 B 事業内容手法 C 市民とのコミュニケーション

8. 二次評価

評価項目	ランク	評価	評価理由
事業実施の緊急性	2	補充	<p>◇地域に残された歴史文化遺産は、地域の歴史と先人の営みから継承された大切なものであり、地域の誇りと愛着心の醸成をつくりだし、また、まちづくり活動の切っ掛けや他市へのPRもでき、継続して進めていくべきと考えます。</p>
A 事業実施の必要性	2	継続実施	
実施主体の妥当性	3	改善見直し	
サービス対象の広がり	3	抜本的見直し	
B 事業内容等の適切さ	2	休止	
受益者負担の適切さ	3	廃止	
C 市民ニーズの把握	1		

9. 外部評価

評価	評価理由
補充	
継続実施	
改善見直し	
抜本的見直し	
休止	
廃止	

10. 最終評価

評価	評価理由
補充	二次評価のとおりとする。
○ 継続実施	
改善見直し	
抜本的見直し	
休止	
廃止	

事務事業名(細目)	歴史資料館運営管理事業	担当部課	文化財課
予算コード	10 - 05 - 04 - 100 - 01		
款: 教育費	項: 社会教育費	目: 文化財保護費	

1. 事務事業の目的、事業内容

総合計画体系	好きなまちでエコライフ【社会減抑制】	事業開始年度	評価区分	計画
18	後世に残したい歴史文化遺産の保存活用	H 17	事業種別	2.維持管理事業
事業の目的	市内の歴史文化資料を収集、保管展示することで、特に市民が朝来市の歴史文化遺産の価値を再認識し、地域に対する誇りや愛着心を持つことを目的とする。 また、次世代を担う子供たちの学習機会を提供する。			
事業の実施内容等	○市内の歴史資料館や文化財施設の維持管理 ・和山歴史民俗資料館・郷土文化財館の維持管理、来館対応を行った。 ・山東郷土資料館の運営管理を実施(委託料190千円) ・ム一セ旧居の運営管理を実施(委託料762千円) ・ム一セ旧居の屋根瓦の修繕(修繕費1,000千円)			

2. 事業費等(単位:円)

節区分	平成27決算(円)	説明等	前年度決算(円)
7.賃金	2,511,682	事務員賃金	0
9.旅費	0	博物館協会出席旅費	0
11.需用費	1,643,411	光熱水費、消耗品費、修繕料	944,244
12.役務費	363,089	電話代	131,683
13.委託料	1,463,920	施設管理委託料、設計委託料他	1,807,120
14.使用料及び賃借料	35,364	コピーリース料、下水道使用料	35,321
15.工事費	0	ム一セ旧居外構	1,440,720
合計	6,017,466		4,359,088
財源内訳	特定財源	国庫支出金	
		県支出金	
		地方債	
		その他	
	一般財源	6,017,466	4,359,088
	合計	6,017,466	4,359,088
国庫支出金を除いた比率	100.00%		

歴史資料館運営管理事業

3. 事業費等の推移(単位:円(決算))

【1】節区分	【2】説明	年 度			
		24年度	25年度	26年度	27年度
7.賃金	事務員賃金	0	0	0	896,904
9.旅費	博物館協会出席旅費	0	0	0	0
11.需用費	光熱水費、消耗品費、修繕料	638,246	997,822	944,244	1,643,411
12.役務費	電話代	133,297	202,830	131,683	363,089
13.委託料	施設管理委託料、設計委託料他	1,878,560	2,148,860	1,807,120	1,463,920
14.使用料及び賃借料	コピーリース料、下水道使用料	34,380	43,464	35,321	35,364
15.工事費	ム一セ旧居外構	0	0	1,440,720	0
18.備品購入費	電話器購入費	34,380	9,345	0	0
事業費計		2,718,863	3,402,321	4,359,088	4,402,088
【4】正規職員人件費		1,963,000	1,200,000	1,935,000	1,671,000
【5】臨時職員人件費		2,626,000	2,677,000	1,874,000	259,000
【6】総合計		7,307,863	7,279,321	8,168,088	6,332,088
財源内訳	特 定 財 源				
	【7】国庫支出金			0	0
	【8】県支出金			0	0
	【9】地方債			0	0
	【10】その他	14,900		0	0
	【11】一般財源	7,292,963	7,279,321	8,168,088	6,332,088
【12】合計	7,307,863	7,279,321	8,168,088	6,332,088	
【13】国庫支出金を除いた比率		100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

4. 成果指標等

【1】事業の活動を表す数値	単位	年 度			
		24年度	25年度	26年度	27年度
開館日数	日	216	217	217	120
<変化の理由> 平成27年度から和山郷土資料館の開館日が変更となり、従来の週6日制から、土日のみの開館となったため、開館日数が激減している。ただし、平日の観覧予約があった場合は文化財課職員が対応している。和山郷土歴史には貴重な資料も収蔵、展示されているが、開館日を土日のみにしてまで維持しておく必要があるのか、検討の必要がある。					
【2】事業の成果を表す数値	単位	年 度			
		24年度	25年度	26年度	27年度
入館者数(全体)	人	4,424	5,808	6,871	6,249
入館者数(山東郷土資料館、和山郷土歴史館、朝来郷土資料館分)	人	1,743	1,381	1,201	762
<変化の理由> ム一セ旧居の入館者数は年々増加しているがそれ以外の施設が軒並み減少している。特に和山郷土歴史館は、開館日数が減少したこともあり、平成27年度は24年度と比べて30%の減少となっている。					

5. 成果単位あたり金額(円)

【1】単位あたり金額	年 度			
	24年度	25年度	26年度	27年度
入館者数(全体)	1,652	1,253	1,189	1,013
<変化の理由及びそれへの対応策> 全体のコストは25年度からほぼ横ばいであるが、ム一セ旧居を抜いた場合は非常にコストが高くなっている。これは、開館日数の減少もあり入館者数が減っているのに関わらず、整備委託料や需用費等の経費は変わらないことが原因である。 各郷土資料館にある資料等を埋蔵文化財センターに移し、定期的に展示を行うなど、資料館の再編を検討する必要がある。				

歴史資料館運営管理事業

6. 事業環境

[1]市民ニーズ・団体の意見 (アンケートなど)	地元住民のヒアリングによると、地域の歴史や文化財を紹介する貴重な施設であるために残してほしい。観光客が寄れるような施設にしてほしい。という意見が聞かれる。
[2]近隣市町で提供されているサービス水準との比較	
[3]代替サービスの有無	あり 博物館等の指定管理経験業者に管理を委託する。

7. 一次評価

評価項目	ランク	評価	評価理由
A 事業実施の緊急性	2	拡充	◇改善見直しの必要性があると判断する。 ◆維持管理経費に比べて、入場者数が伸び悩んでいる施設がある。また、職員削減、組織改編による現状の職員数では、和田山郷土歴史館等での企画展開催や周知活動は実質不可能である。 博物館相当施設の活動を埋蔵文化財センターに集約し、郷土資料館収蔵資料も保管しながら、定期的に展示によって紹介をすることで、効率化と埋蔵文化財センターへの集客増を目指すべきと考える。
事業実施の必要性	1	継続実施	
実施主体の妥当性	1	○ 改善見直し	
サービス対象の広がり	3	抜本的見直し	
B 事業内容等の適切さ	1	休止	
受益者負担の適切さ	2	廃止	
C 市民ニーズの把握	2		

A 事業実施意義 B 事業内容手法 C 市民とのコミュニケーション

B. 二次評価

評価項目	ランク	評価	評価理由
A 事業実施の緊急性	2	拡充	◇各郷土資料館の資料等を埋蔵文化財センターで展示していく、併せて今後の日常管理等を含めて見直しを行うべきと考える。
事業実施の必要性	1	継続実施	
実施主体の妥当性	1	○ 改善見直し	
サービス対象の広がり	2	抜本的見直し	
B 事業内容等の適切さ	1	休止	
受益者負担の適切さ	2	廃止	
C 市民ニーズの把握	2		

9. 外部評価

評価	評価理由
拡充	
継続実施	
改善見直し	
抜本的見直し	
休止	
廃止	

10. 最終評価

評価	評価理由
拡充	郷土資料館のあり方について検討する必要がある。
継続実施	
○ 改善見直し	
抜本的見直し	
休止	
廃止	

事務事業名(細目)	埋蔵文化財センター運営管理事業	担当部課	文化財課
予算コード	10 - 05 - 04 - 102 - 01		
款: 教育費	項: 社会教育費	目: 文化財保護費	

1. 事務事業の目的、事業内容

総合計画体系	好きなまちでエコライフ【社会減抑制】	事業開始年度	評価区分	計画
18	後世に残したい歴史文化遺産の保存活用	H 18	事業種別	1.ソフト事業
事業の目的	国史跡茶すり山古墳、国重要文化財茶すり山古墳出土品をはじめ、県史跡池田古墳に挙げられる、市内歴史文化遺産の市民等への更なる周知と学習機会の提供を通して、誇りの醸成や愛着心を高めることを目的とする。 また、埋蔵文化財だけでなく、広く歴史文化遺産の展示を行うと共に、講演会や講座、古代体験事業を実施し、より多くの市民が文化財への理解や郷土の歴史に対する認識を深めることを目的とする。			
事業の実施内容等	○埋蔵文化財センター及び茶すり山古墳学習館の運営維持管理 ・企画展を実施した。 「弥兵衛のおしあと～和田山・東河地域の歴史文化～」(平成27年6月27日～9月27日 来館者数12,379名) 「とらふす城」(10月1日～12月13日 来館者数:8,037名) 「藍染型紙の美～和田山郷土資料館収蔵品より～」(12月15日～平成28年3月21日 来館者数5,329名) ・体験学習を実施した。 「勾玉づくり体験」、「土器づくり体験」「水島形埴輪づくり体験」「埴輪焼き体験」 ・ちゃすりんサポートくらぶの開催(年8回)「全国古墳サミットへの参加」「全国古代体験フェスティバルへの参加」 ・埋蔵文化財センター機器及び周辺環境の維持管理を実施。(空調、電気工作物管理、清掃等) ・史跡茶すり山古墳及びガイダンス施設の維持・管理。(来館者数把握、映像施設のレンズ交換)			

2. 事業費等(単位:円)

節区分	平成27決算(円)	説明等	前年度決算(円)
7.賃金	0	嘱託職員賃金	0
8.報償費	72,000	講演会講師報償費、運営委員会委員報償費	98,600
9.旅費	3,000	講演会講師旅費、委員職員旅費	91,600
11.需用費	21,891,000	消耗品費、印刷費、光熱水費、修繕費	24,308,531
12.役務費	2,165,000	電話、郵便、保険料、手数料、施設設備保守点検料	2,154,217
13.委託料	374,000	施設維持管理費	435,801
14.使用料及び賃借料	745,000	自動車専用道路運結料、機器リース料等	866,706
27.公課費	7,000	自動車重量税	0
合計	25,257,000		27,955,455
財源内訳	特定財源	国庫支出金	1,000,000
		県支出金	500,000
		その他	1,842,981
		その他	10,246,734
		一般財源	13,167,285
合計	25,257,000		27,955,455
国庫支出金を除いた比率	100.00%		

3. 事業費等の推移(単位:円(決算))

【1】節区分	【2】説明	年 度			
		24年度	25年度	26年度	27年度
7.賃金	嘱託職員賃金	0	0	0	0
8.報償費	講演会講師報償費、運営委員会委員報償費	124,775	135,970	98,600	72,000
9.旅費	講演会講師旅費、委員職員旅費	210,640	74,060	91,600	3,000
11.需用費	消耗品費、印刷費、光熱水費、修繕費	20,729,768	22,108,372	24,308,531	21,891,000
12.役務費	電話、郵便、保険料、手数料、施設設備保守点検料	2,060,304	2,274,623	2,154,217	2,165,000
13.委託料	施設維持管理費	725,648	1,305,006	435,801	374,000
14.使用料及び賃借料	自動車専用道路運結料、機器リース料等	577,924	650,255	866,706	745,000
18.備品購入費	備品購入費	0	51,538	0	0
27.公課費	自動車重量税	0	14,200	0	7,000
事業費計		24,429,057	26,614,024	27,955,455	25,257,000
【4】正規職員人件費		17,898,000	8,502,000	6,691,000	2,741,000
【5】臨時職員人件費		6,303,000	7,229,000	4,949,000	7,788,000
【6】総合計		48,630,057	42,345,024	39,595,455	35,786,000
財源内訳	特【7】国庫支出金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	0
	定【8】県支出金	500,000	500,000	500,000	0
	財【10】その他	1,771,900	1,796,017	1,452,795	1,842,981
	課【10】その他	7,765,998	9,744,498	10,434,849	10,246,734
	【11】一般財源	37,592,159	29,304,509	26,207,811	23,696,285
【12】合計	48,630,057	42,345,024	39,595,455	35,786,000	
【13】国庫支出金を除いた比率		93.86%	94.36%	94.63%	100.00%

4. 成果指標等

【1】事業の活動を表す数値	単位	年 度			
		24年度	25年度	26年度	27年度
企画展・特別展回数	回	3	4	3	3

<変化の理由>
 当館は毎年、3～4回の企画展を実施している。市内の埋蔵文化財に関する新たな発見や、朝来市の歴史を紐解く企画展示を実施してきたが、最近では埋蔵文化財だけでなく、市域に眠る幅広い分野の文化財全般に焦点をあてた展示、各郷土資料館の資料展示も行っている。

【2】事業の成果を表す数値	単位	年 度			
		24年度	25年度	26年度	27年度
入館者数	人	30,028	31,803	30,362	35,135

<変化の理由>
 平成18年の開館以降、平成23年度までは年間3万人を切る入館者数であったが、竹田城跡の人気とともに当館への来館も増加し、平成24年度以降は3万人以上を数えている。竹田城跡の観光が落ち着いたにも関わらず平成27年度は、3万5千人を突破し、開館年の4万7千人に次ぐ2番目の入館者数となった。周知活動、道の駅まほろばとの連携等が実を結びつつあると考えている。

5. 成果単位あたり金額(円)

【1】単位あたり金額	年 度			
	24年度	25年度	26年度	27年度
入館者数	1,619	1,331	1,304	1,019

<変化の理由及びそれへの対応策>
 年度ごとの予算額に大きな変動はないが、展示関係の国庫補助が平成27年度から無くなったため、企画展を予算なしで実施した。結果として入館者数は増加したものの、これは隣接する道の駅まほろばの集客に拠るところもあり、予算が無くても展示が実施できるとは言い難い。
 他施設からの資料賃借料や、貴重な歴史文化遺産の輸送費がないために、自前の小規模な展示にとどまったり、印刷費用もないため、チラシやポスターによる周知活動もできなかった。
 今後は郷土資料館の再編も考慮し、一定の展示費用、周知費用が必要になると考えている。

6. 事業環境

[1]市民ニーズ・団体の意見 (アンケートなど)	入館者アンケートによれば、市外からの入館が多く、まだまだ市民に完全に知られていないと言えない。 館内の雰囲気、展示内容は素晴らしいとの声が多い。
[2]近隣市町で提供されているサービス水準との比較	豊岡市の但馬・国分寺館では入館料を徴収しているが、当館は無料である。
[3]代替サービスの有無	あり 博物館等の指定管理経験業者に管理を委託する。

7. 一次評価

評価項目	ランク	評価	評価理由
A 事業実施の緊急性	2	○ 拡充	◇継続実施すべきである。 ◆朝来市民の誇り、郷土愛を高める手法として、市の歴史や貴重な文化遺産を学び、活用していくことは非常に有効であると考え。当館は、埋蔵文化財だけでなく幅広い分野の文化遺産の調査、保管、展示できる施設であり、道の駅と隣接していることもあり多くの観光客が来館する。市内外への朝来の歴史文化発信拠点として、今後も継続していくべきである。
事業実施の必要性	2	○ 継続実施	
実施主体の妥当性	2	改善見直し	
サービス対象の広がり	2	抜本的見直し	
B 事業内容等の適切さ	2	休止	
受益者負担の適切さ	1	廃止	
C 市民ニーズの把握	3		

A 事業実施意義 B 事業内容手法 C 市民とのコミュニケーション

8. 二次評価

評価項目	ランク	評価	評価理由
A 事業実施の緊急性	2	○ 拡充	◇埋蔵文化財センターは朝来市の玄関口、「但馬のまほろば」に併設し、多くの方々が来館している。朝来市の文化財のPR場所、遺産調査・体験教室も備え、継続実施すべきと考え。
事業実施の必要性	2	○ 継続実施	
実施主体の妥当性	2	改善見直し	
サービス対象の広がり	2	抜本的見直し	
B 事業内容等の適切さ	2	休止	
受益者負担の適切さ	1	廃止	
C 市民ニーズの把握	2		

9. 外部評価

評価	評価理由
○ 拡充	
○ 継続実施	
○ 改善見直し	
○ 抜本的見直し	
○ 休止	
○ 廃止	

10. 最終評価

評価	評価理由
○ 拡充	埋蔵文化財センターをもっと広くPRをすること。
○ 継続実施	
○ 改善見直し	
○ 抜本的見直し	
○ 休止	
○ 廃止	

事務事業名(細目)	文化財保存活用事業	担当部課	文化財課
予算コード	10 - 05 - 04 - 200 - 01		
款: 教育費	項: 社会教育費	目: 文化財保護費	

1.事務事業の目的、事業内容

総合計画体系	好きなまちでエコライフ【社会減抑制】		事業開始年度	評価区分	計画
	18	後世に残したい歴史文化遺産の保存活用	H 24	事業種別	1.ソフト事業
事業の目的	朝来市は、古代から中世、近現代にかけて幅広く貴重な文化遺産が多く存在している。また天然記念物も豊富に生息する環境である。それらを適切に保存し、住民の誇りの醸成と地域活性化に寄与する活用方法を検討、実施することで、市内外に向けて朝来市歴史文化遺産の価値を上げていく。				
事業の実施内容等	○文化財保存整備計画策定事業 ・朝来市歴史文化基本構想を策定した。(3,279千円) 朝来市合併から10年を迎え、朝来市の歴史文化の特徴を把握し、文化遺産の保存活用の考え方や理念をまとめた。 ・生野鉱山及び鉱山町の文化的景観整備構想を策定した(2,000千円) 国の重要文化的景観に選定された生野地域の景観整備計画策定にむけた基本方針である構想を策定した。 ○天然記念物の保護業務 ・国特別天然記念物オオサンショウウオの円山川流域での生息調査を実施した。(委託料259千円) ・指定天然記念物樹木/パトロールを実施した。 ・県指定天然記念物「延応寺の大ケヤキ」の応急修繕措置を実施した。 茅葺住宅の保存修理・活用 ・旧井上家住宅屋根の茅葺き替え工事を実施した。(7,731千円)				

2.事業費等(単位:円)

節区分	平成27決算(円)	説明等	前年度決算(円)
8.報償費	382,000	委員会委員等謝礼、講座講師謝礼	654,400
9.旅費	488,000	委員職員等出張旅費	623,700
11.需用費	2,110,000	消耗品費、印刷費、原材料費	1,032,570
12.役務費	0	手数料	44,193
13.委託料	4,610,000	計画策定委託、設計監理委託、環境生息調査委託	6,429,628
15.工事費	4,986,000	茅葺住宅修復工事	9,340,000
16.原材料費	0	茅材料代	129,600
合計	12,576,000		18,254,091
財源内訳	特定国庫支出金	4,017,740	8,000,000
	特定県支出金	1,497,000	4,000,000
	特定地方債		
	特定その他		
	一般財源	7,061,260	6,254,091
合計	12,576,000	18,254,091	
国庫支出金を除いた比率	56.15%		

3. 事業費等の推移(単位:円(決算))

【1】節区分	【2】説明	年 度			
		24年度	25年度	26年度	27年度
8.報償費	委員会委員等謝礼、講座講師謝礼	538,400	738,590	654,400	382,000
9.旅費	委員職員等出張旅費	194,430	559,660	623,700	488,000
11.需用費	消耗品費、印刷費、原材料費	205,975	2,380,403	1,032,570	2,110,000
12.役務費	手数料(新聞折込)	43,946	65,309	44,193	0
13.委託料	計画策定委託、設計監理委託、環境生息調査委託	4,935,000	43,381,611	6,429,628	4,610,000
14.仮用料及び賃借料	資材レンタル料他	0	201,975	0	0
15.工事費	竹田城跡環境整備工事 茅葺住宅修復工事	486,150	43,114,260	9,340,000	4,986,000
16.原材料費	茅材料代	0	203,700	129,600	0
事業費計		6,403,901	90,645,508	18,254,091	12,576,000
【4】正規職員人件費		6,486,000	14,890,000	12,695,000	6,983,000
【5】臨時職員人件費		6,496,000	268,000	803,000	1,297,000
【6】総合計		19,395,901	105,803,508	31,752,091	20,856,000
財源内訳	特【7】国庫支出金	0	7,000,000	8,000,000	4,017,740
	定【8】県支出金	0	3,500,000	4,000,000	1,497,000
	財【9】地方債	0	0	0	0
	源【10】その他	0	48,142,200	0	0
	【11】一般財源	19,395,901	47,161,308	19,752,091	15,341,260
【12】合計	19,395,901	105,803,508	31,752,091	20,856,000	
【13】国庫支出金を除いた比率		100.00%	88.42%	34.26%	56.15%

4. 成果指標等

【1】事業の活動を表す数値	単位	年 度			
		24年度	25年度	26年度	27年度
市内観光客数(全体)	人	2,147,430	2,594,037	2,617,677	2,450,422
観覧会開催数	回	4	4	8	10

<変化の理由>
 竹田城跡維持管理、生野文化的景観関係、歴史文化基本構想策定等の各種委員会の開催回数はほぼ変わらない。毎年、何らかの整備計画や管理計画等を検討、策定している。これらは、歴史文化遺産の保存活用の在り方について現在の方針、考え方を後世に伝えるために必要なものである。
 観覧会は、オオサンショウウオの観覧会であり、日本ハンザキ研究所とともに実施している。現在は月1回開催。

【2】事業の成果を表す数値	単位	年 度			
		24年度	25年度	26年度	27年度
市内観光客数(生野鉱山、竹田城跡、埋蔵文化財センター)	人	346,008	629,565	689,840	526,893
観覧会訪問者数	人	20	39	85	120

<変化の理由>
 竹田城跡や生野鉱山などの観光客の増加により、市内の他の歴史文化遺産にも興味を持つ観光客が増加している。今後も適切に保護しつつ、多くの来訪者に魅力を感じてもらえる整備方針や活用方針を定め、実行していく必要がある。
 日本ハンザキ研究所を中心とした地遊な活動により、オオサンショウウオに興味を持つ人も増加しており、研究所への訪問、夜間観覧会への参加者も増え続けている。国内でも有数のオオサンショウウオ生息地として、情報発信にも力を入れていくべきである。

5. 成果単位あたり金額(円)

【1】単位あたり金額	年 度			
	24年度	25年度	26年度	27年度
市内観光客数(生野鉱山、竹田城跡、埋蔵文化財センター)	56	188	46	40
<変化の理由及びそれへの対応策> 竹田城跡や生野鉱山など、朝来市文化財観光のシンボルタワーの保存と活用の両立について議論を重ね、多くの観光客が訪れても変わらず文化財を守ることができ、さらに魅力を発信していくための事業を実施する。				

6. 事業環境

[1]市民ニーズ・団体の意見 (アンケートなど)	オオサンショウウオ夜間観察会への参加者へのアンケートでは概ね反応が良く、継続を望む声 が強い。今後は文化的景観にかかる地域住民の声をしっかりと聴取する必要がある。
[2]近隣市町で提供されて いるサービス水準との比較	竹田城跡の保存活用、生野鉱山及び鉱山町の文化的景観の国選定、日本ハンザキ研究所との 連携等、文化財の活用については他市町に比べて積極的である。
[3]代替サービスの有無	無し 日本ハンザキ研究所等と、より積極的に連携を図る。

7. 一次評価

評価項目	ランク	評価	評価理由
A 事業実施の緊急性	2	拡充	◇継続実施すべきである。 ◆竹田城跡、生野鉱山など朝来市が全国に誇る歴史文化を保存活用していくことでその価値を再認識し、市民の誇り、郷土愛の醸成につながっている。 また、オオサンショウウオの生息数が日本有数であることも、自然が豊かである朝来市の魅力の一つであるとともに、今後も適切な保護調査、情報発信を積極的に実施する。 今後も官民が一体となった歴史文化を活かしたまちづくりに取り組む。
事業実施の必要性	2	継続実施	
実施主体の妥当性	3	改善見直し	
B サービス対象の広がり	3	抜本的見直し	
事業内容等の適切さ	2	休止	
受益者負担の適切さ	2	廃止	
C 市民ニーズの把握	2		

A 事業実施意義 B 事業内容手法 C 市民とのコミュニケーション

8. 二次評価

評価項目	ランク	評価	評価理由
A 事業実施の緊急性	2	拡充	◇それぞれの地域が持つ地域遺産等を活用しまちづくりを進め、特色ある地域活性化を図っていくことについては、今後も地域市民の皆さんとともに進めていくべきと考える。
事業実施の必要性	2	継続実施	
実施主体の妥当性	3	改善見直し	
B サービス対象の広がり	3	抜本的見直し	
事業内容等の適切さ	2	休止	
受益者負担の適切さ	2	廃止	
C 市民ニーズの把握	2		

9. 外部評価

評価	評価理由
拡充	
継続実施	
改善見直し	
抜本的見直し	
休止	
廃止	

10. 最終評価

評価	評価理由
拡充	オオサンショウウオを活かす取組みを検討すること。
○ 継続実施	
改善見直し	
抜本的見直し	
休止	
廃止	